

## 眼科

当院は兵庫県の基幹病院であり、神戸市内外から多数の患者さんが紹介されてきますので、大学病院と同じように開業医や市中病院では治療困難な症例が多く集まってきます。一方、当院は市民病院でもあるため、大学病院ではあまり診察することのないcommon diseaseについても経験することができます。当科は市中病院と大学病院の長所をバランス良く併せ持った施設となっています。

当科の研修の特長として、メンター制を敷いていることが挙げられます。当科は全員指導・全員教育の風土があるため、治療方針や手術手技、学会発表などについてどの上級医にも気兼ねなく相談することができます。さらにその中でもメンターとして中心になって指導に当たる医師が一人決まっているため、3年間の研修生活での様々な疑問や悩みを体系的に相談することができます。

当科では手術教育に力を入れており、研修を開始した年から白内障手術や外眼部手術の執刀機会を得ることができます。眼科医にとって手術の執刀経験を早い段階から得ることができることはとても大事ですが、一方で経験が浅い段階では経験豊富な術者から適切なアドバイスを受けることがそれ以上に大事です。豚眼を使ったウェットラボでの経験を十分に積んだ上で、指導医のサポートを受けながら実際に執刀していきます。手術が終われば、その日のうちに指導医よりフィードバックを得ることができますので、よかった点、次回以降気をつける点など、記憶が鮮明なうちにアドバイスを受けられます。このアドバイスも指導医の多数の経験から得られた的確なコメントであるため、非常に学ぶことが多いです。経験豊富な術者が多数いる当科での研修の大きなメリットであると思います。

外来では一般外来に加えて専門外来制を敷いており、その分野は緑内障・黄斑・糖尿病・色素変性・ぶどう膜・角膜など多岐に渡っています。専門外来によっては外部からその分野の第一人者の先生をお招きしているため、診断に難渋するような症例についても、速やかに相談し適切なアドバイスを受けることができます。

当院の救命救急センターは1-3次まであらゆる患者を受け入れており、年間受診者数は3万人を超え、救急車は9000台以上搬入されてきます。そのため眼科救急疾患についても各方面から患者が集まってきます。眼科救急の対応は、救急患者が来ない施設では決して経験することができません。これについては大学病院とは違う大きなメリットだと思います。1年程経つと、眼科救急疾患について一通り経験し、対応に慌てなくなってくると思います。

当科では学術発表についても非常に力を入れております。私も、1年目で国

内学会の発表、2年目で国内及び国外での学会発表を経験させていただき、英語学術論文を現在執筆しています。学会発表の準備はデータ収集、考察など非常に大変ではありますが、これについても発表の担当指導医と相談させていただきながら取り組むことができます。アカデミックなスタッフの多い当科での学術発表指導は非常に学ぶ点が多いです。また、学会参加費や交通費などについても非常に恵まれたサポートを得られますので、学術発表自体に安心して打ち込むことができます。

具体的な3年間のプログラムとしては、まずは1年目では部長の初診外来の副診を担当します。病歴聴取、診察を行い、検査プランを考えた上で部長にプレゼンを行います。部長の診察を見学し、モニター画面を使用して所見のフィードバックを受けます。この際に診察手技、所見の取り方についてしっかりと学習します。硝子体注射やレーザー手術、リスクの低い白内障手術を経験し、学術発表についても並行して行っていきます。2年目からは自分の外来枠が与えられ、専門外来についても所属していきます。1年目での経験をもとに、外来では多数の患者さんの診察をこなしていきます。手術はリスクのやや高い症例についても上級医の適切なサポートのもとに経験していきます。3年目になると、さらに自分でできることが増えていきます。難症例も含めて多くの経験を得ることができます。

このように3年間を通して、眼科医として必要な診察技術と手術手技を体系的に習得することができるのが当科の研修の特長です。

まずは是非一度見学にいらしてください。見学はいつでも大歓迎です。実際に見ていただくと、当科の魅力がとてもよくわかると思います。当科の医師全員で皆さんをお待ちしています。